

癩患者の手指の成形手術の遠隔 成績について

国立療養所邑久光明園

高橋 俊一郎

国立療養所多摩全生園

立川 昇・中原 呉郎

Remote Results of Orthopedic Operations of Leprous Fingers. Shunichiro TAKAHASHI, Leprosarium Oku-Kōmyōen, Noboru TASHIKAWA and Goro NAKAHARA, Leprosarium Tama-Zenshōen.

当園において、屈曲指、対立運動麻痺、垂手などの手術が行われるようになって、3年以上を経過した。いま3年以上を経過したものを集めて見て、好い成績を納めたものと、悪い結果に終わったもののがかなり著明に分かり、今後どのような症例に、どのような術式をやる可きかがほゞ見当がつくと思われるので、成績を発表することとした。

らい療養所の患者を手がける者のみならず、いっばんに比較的少ないこれ等の適應症の手術をする者にとっても、何らかの参考になれば幸いである。

1 鷲爪手の中、施行された手術の内訳は、Lexer 6例、Bunnel 7例、Wittek 1例である。その中、退院5名、死亡2名で、現在人員は、Lexer 2、Bunnel 5の7名である(第1表)。

第1表

術式	手術例	退院	死亡	現在人員
Wittek	1	0	1	0
Lexer	6	3	1	2
Bunnel	7	2	0	5
計	14	5	2	7

2 母指対立運動麻痺に対する手術は、Bunnel 8、Roeren 6、Royle 1の15例である。その中、退院1、死亡1で、現在人員はBunnel 6、Roeren 6、Royle 1の13名である(第2表)。

第2表

術式	手術例	退院	死亡	現在人員
Bunnel	8	1	1	6
Roeren	6	0	0	6
Royle	1	0	0	1
計	15	1	1	13

3 その他に手指屈曲に対する Henle の手術が1例ある。

4 母指欠損に対する骨軸筒状皮膚移植による造指術を行なったものが1例である。

5 退院患者については、よく分からないが、大体好い成績を得たものと考えて、此のものは全手術例の18%にあたる。

6 遠隔成績の判定については、他覚的所見と、自覚的所見の両方から、これを総合判断した。他覚的所見は、つまみ動作(三指、二指、細つまみ)、はさみつまみ、かぎ下げ、わしづかみ、にぎりづかみ、握力、指屈曲度の9つに分けた。(三指は、母指、示指、中指によるつまみ、二指は、母指、示指によるつまみ、細つまみは、二指による針等の小さいものをつまむ運動である。はさみつまみは、紙ばさみなどを、母指掌面と示指横掌面とでつまむ運動をいう。)各動作の判定は、それぞれ、良、稍良、不変、稍不良、不良の5段階に分けた。

7 鷲爪手の遠隔成績は、第3表の通りである。
全般的に不成績で、やゝ良いと思われるものゝ成績は、28%である。

9 その他に指の攣縮に対する Henle の手術が昭和29年9月に行われた。これは外観的に綺麗になっ
ていて、健康人の手のように見えるが、全体として力が

第3表 鷲爪手の遠隔成績

氏名	手術方法	所見	他覚的所見						握力	自覚的所見		総合判断	
			つまみ動作			はさまみ	か下ぎげ	わづかしみ		につぎかりみ	具体的に		全般的に
			三つ	二つ	細つまみ								
北 ○ ○ 雄	Lexer (左4,5指)		不変	不変	不変	不変	不変	稍良	稍良	21	屈曲が自由になった	やって良かった	稍良
宮 ○ ○ 三	Lexer (左5指)		不変	不変	不良	不変	不変	稍不良	稍不良	21	力が弱くなった	やらない方が良かった	不良
天 ○ 覚	Bunnel (右3,4指)		不良	不良	不良	不良	不良	不良	不良	7	力が弱くなった	やって悪かった	不良
小 ○ ○ 吾	Bunnel (右4,5指)		稍不良	稍不良	稍不良	稍不良	不変	不良	不良	17	まっすぐにはなかったが力がなくなった	やって悪かった	不良
山 ○ 定	Bunnel (左4,5指)		稍不良	稍不良	稍不良	稍不良	不変	不良	不良	20	前より曲がり4指使いにくい	やって悪かった	不良
富 ○ 実	Bunnel (左4,5指)		不変	不変	不変	不変	不変	不変	不変	70	変化がない	やらなくても良かった	不変
阿 ○ ○ 次	Bunnel (左4,5指)		不変	不変	不変	不変	不変	稍良	稍良	29	4,5指の握力が出たように思う	やっても良かった	稍良

8 母指対立運動麻痺に対する手術の遠隔成績は、第4表の通りである。

全般的に好成绩で、良いものは全体の80%である。

母指対立運動麻痺中、番号1, 2, 3のものは、筋力源 : M. palm. long., 滑車 : M. flex. carp. uln., 腱 : M. ext. poll. brev. を用いた Bunnel の手術である。

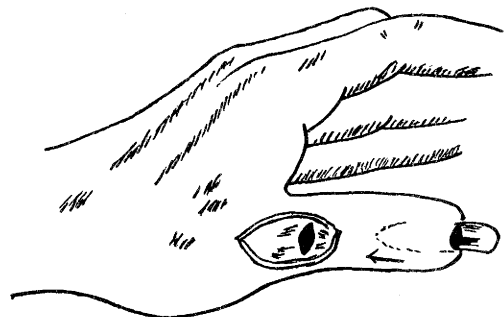
番号4のものは、筋力源 : M. flex. carp. uln.滑車 : M. flex. carp. uln. (半分を使用), 腱 : M. ext. poll. brev. を用いた Bunnel の手術である。

番号5, 6, 7, 8, 9では、第4浅指屈筋腱を又状下で切り、横手根靭帯を通して、第2母指指骨の骨孔を通して固定した Roeren の手術である。

番号10のものは、Roeren の変法で、又状部で二つに分け、一方を短母指屈筋腱附着部へ、他の一方を母指対立筋の外縁に固定した Royle の手術である。

弱っている。患者は初め社会復帰を希望し、手術をして喜んだが、その後社会復帰を家庭の事情から断念するにいたり、現在では後悔している。

10 そのほかに、母指欠損に対する、神中の骨軸筒状皮膚移植を行ない、外観的にも、作業上にも非常に



骨軸筒状皮膚移植術

第4表 母指内転対立運動麻痺に対する手術の遠隔成績

番号	日附	氏名	手術名	他覚的所見							自覚的所見		総合判断	
				つまみ動作 三つ	二つ	細つまみ	はつまみ つまみ	か下 ぎげ	わづか し	にづか み	握力	具体的に		全般的に
1	32. 7.15	飯塚昇	Bunnel	稍良	稍良	稍良	稍良	不変	不変	不変	11	対立が良くなった	総体に好い	良
2	32. 10.11	金〇〇郎	"	良	良	良	稍良	不変	不変	不変	17	対立が良くなった	非常に良かった	極めて良
3	32. 8.9	高〇〇一	"	稍良	稍良	不変	不変	不変	不変	不変	0	字が書ける様になった	やって良かった	良
4	32. 5.15	村瀬〇〇	"	稍良	稍良	不変	不変	不変	不変	不変	11	力が出た	やって良かった	良
5	32. 8.2	佐〇〇作	Roeren	稍良	良	稍良	不変	不変	不変	不変	6	内転が可能となる	やった方が良かった	良
6	"	渋谷〇〇	"	稍良	良	稍良	不変	不変	不変	不変	5	使い良い	"	良
7	32. 8.23	金〇〇潤	"	不変	稍良	不変	不変	不変	稍良	稍良	0	握り良くなった	やって良かった	稍良
8	32. 8.9	大〇〇ミ	"	不変	不変	稍不良	稍不良	不変	稍不良	稍不良	4	母指は好いが他指が曲がって来た	やらない方が良かったと思う	稍不良
9	32. 8.29	高〇〇恒	"	稍良	稍良	稍良	良	不変	良	良	6	内転可能となった	やって良かった	良
10	32. 8.16	池〇〇弘	Royle	稍不良	稍不良	稍不良	稍不良	不変	稍不良	稍不良	6	1年で前にもどった	やらない方が良かった	不良

よくなっている。骨は Darmbein を用い、移植皮膚は腹部のものを用いた。

11 そのほかに、Campbell による手関節固定術の1例が行われた。腸骨を橈骨と中手骨(3, 4)にくっつけるもので、垂手の状態よりずっと使い好いと喜んでいる。足関節固定に比して、重みや、強い外力が加わらないので好いと思われる。

結 論

1 軽いものほど結果がよく、退院するような病状の軽度のものに実施される可きものと思われる。

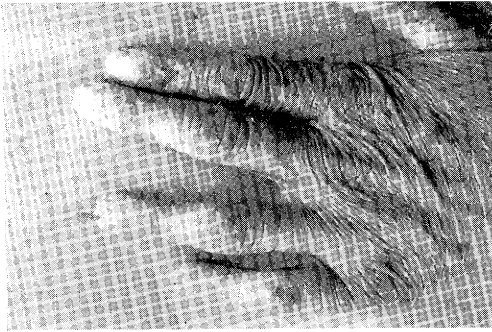
2 いっばんに、鷲爪手の手術は結果がよくなくて、良好な成績を得たものは、28%くらいであった。

3 ぜんばんに見て、母指対立運動麻痺に対する手術は、成績が良かった。良好なものは、ぜんたいの80%であった。

4 母指対立運動麻痺に対する手術の中、Bunnel, Roeren がよく、Royle は1例だけだが、結果が悪かった。Bunnel と Roeren では大差なかったが、これらの少数例から見れば、Bunnel が好いと思われた。

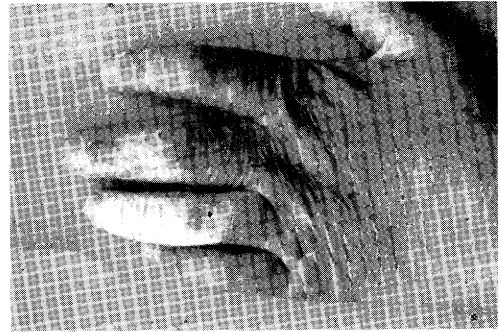
5 Roeren の骨孔を通して固定する際、尺側よりしたものは、母指の動きが悪く、かつ、母指第1関節より先が屈曲している。初めは、rotation に益があると考えられたようであるが、絶対に悪いと考えられる。先が屈曲するのは伸筋を圧迫するからであろうか？

第
1
図



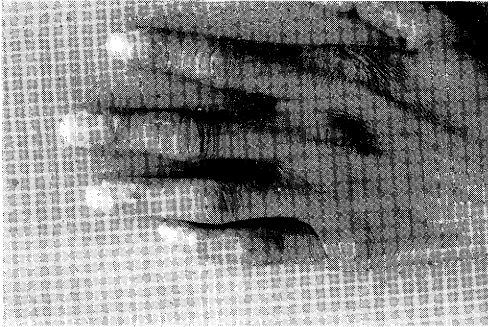
3表1 (北 ○ ○ 雄)

第
4
図



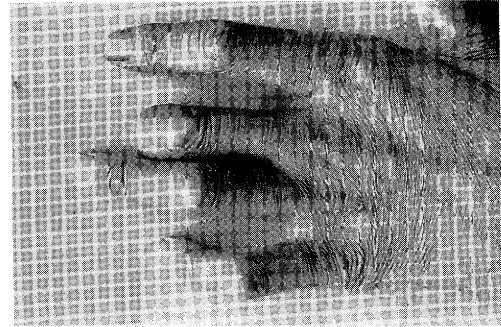
3表6 (富 ○ 実)

第
2
図



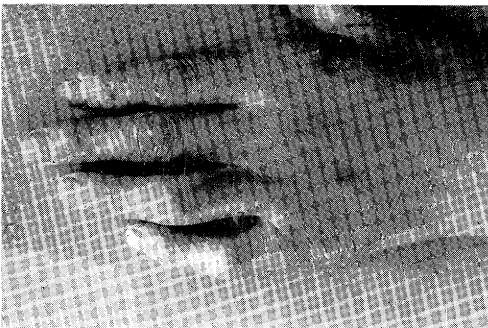
3表2 (宮 ○ ○ ミ)

第
5
図



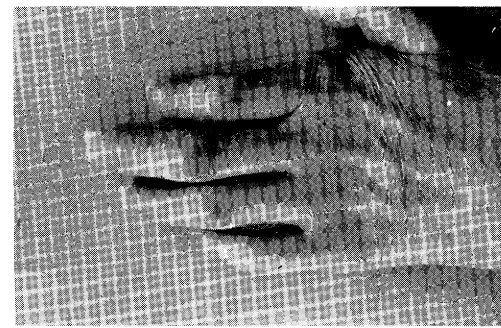
3表7 (阿 ○ ○ 次)

第
3
図



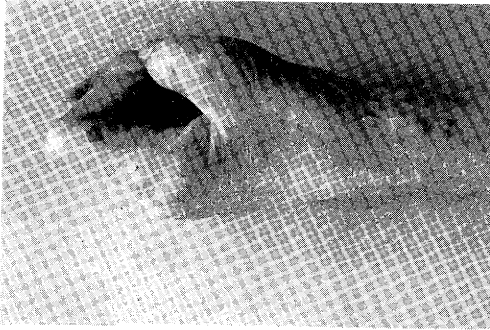
3表5 (山 ○ 定)

第
6
図



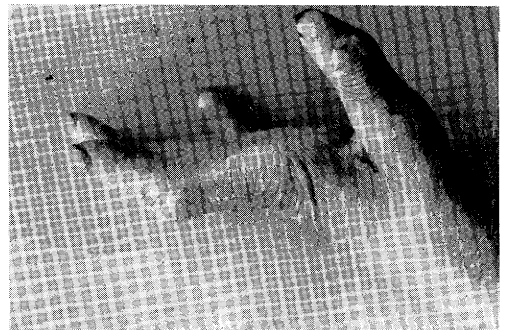
Henle によるもの (高 ○ ○ 助)

第
7
図



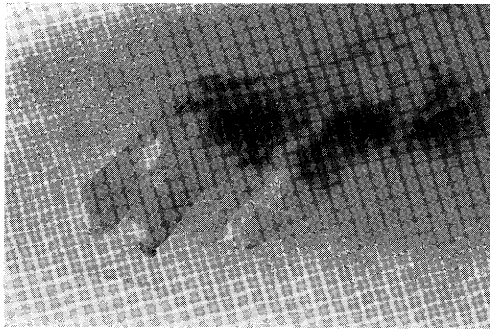
4表1 (飯 塚 昇 ○)

第
10
図



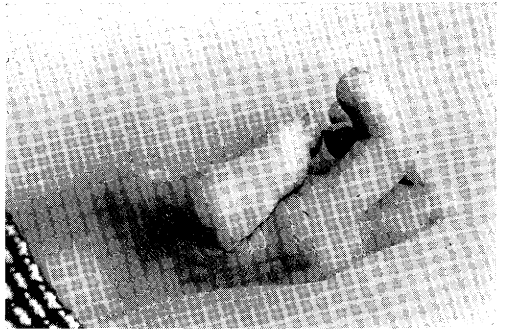
4表6 (渋谷 ○ ○)

第
8
図



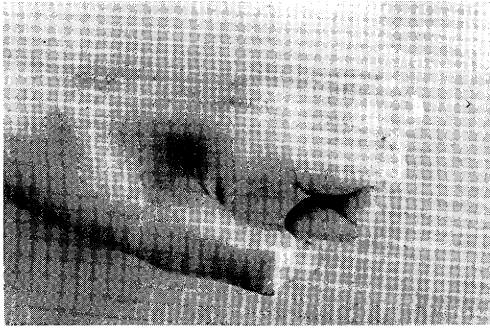
4表3 (高 ○ ○ 一)

第
11
図



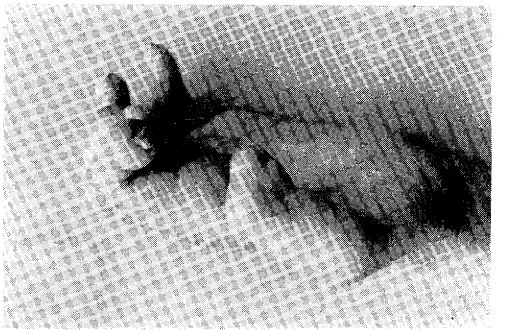
4表8 (大 ○ ○ ミ)

第
9
図



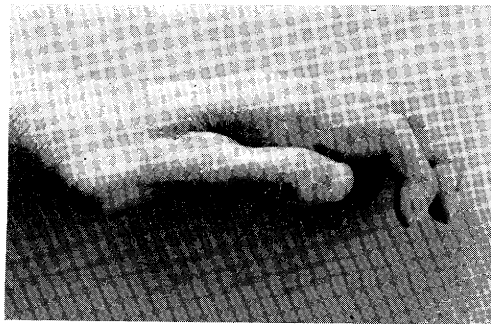
4表5 (佐 ○ ○ 作)

第
12
図



4表9 (高 ○ ○ 恒)

第
13
図



4表10 (池 ○ ○ 弘)

6 Henle を行なった1例は、指が伸びて外観的に良かったが、力がぜんぱんに弱くなり、生活面では逆に悪い結果となった。

7 神中法による手関節固定術は、良い成績を納めた。

8 神中法による骨軸筒状皮膚移植の造指術は成功であった。

反 省

1 癩の病変がよく固定していないものにやると、

その後の癩性病変の進展のために、結果が悪くなる場合があった。例えば、母指対立の手術をやり、母指はうまく行っていたが、その後、他の手指が強度に屈曲して、使用しにくくなったときである。

2 手術後の training 管理をよくやる必要があると思われた。これについての我々の関心がうすすぎた嫌いがあった。

3 初めの(手術前の)不自由度の観察測定が不十分であったため、遠隔成績を正確に判定することが困難であった。

文 献

1) BUNNEL, S. : Surgery of the Hand, 2nd Ed. ;

381~517, J. B. Lippincott, Philadelphia, 1954.

Summary

Generally speaking, it was found that the orthopedic operation of deformed and dysfunctional fingers of leprosy patients was rewarded with better result in milder cases than in severer cases, so far as the remote result was observed for three years after each surgical treatment in the Leprosarium Oku-Kōmyōen and Tama-Zenshōen.

In the operation of the clawhand we succeeded in realizing the anticipated result only in two out of seven cases. The surgical treatment for the adduction-opposition paralysis of the thumb was successful in seven out of ten cases.

Concerning employed operative methods, BUNNEL's and ROEREN's were successful in general, but, when in the latter a tendon piece was transplanted into the ulnar side of the thumb, its function was found to be handicapped for the rotation. HENLE's, used in a case, resulted in the dysfunction of the fingers in spite of their bettered appearance. ROYLE's, used in a case, ended in failure.

(NAKAHARA, G.)

Received for publication February 8, 1961